

“口述筆記の書齋”  
移設・復元のため  
募金にご協力ください

■ 募金活動期間 ■

平成29年9月1日 ~ 平成30年8月31日 1年間

■ 事業費概算 ■

- 分館建設 ..... 3,400万円
- 記念出版 ..... 350万円
- オープニングセレモニー・記念行事等 ..... 250万円
- 展示改装・資料整理など ..... 1,100万円

■ 募金の目標 ■

募金総額 **5,400万円**

募 集 要 項

ゆうちょ銀行 振替口座 **02750-7-47148**

※同封の専用払込用紙をお使いください(払込手数料無料)。

企業様・団体様など、請求書の必要な方はご遠慮なく、お申し付けください。  
旭川信用金庫の専用口座もございます。

この募金は、公益財団法人三浦綾子記念文化財団に対する寄付金として税制上の優遇措置が受けられます。

- 個人 ..... おもに「所得税」、「個人住民税」、「相続税」

詳しくは、文学館ホームページをご覧ください。文学館事務局までお問い合わせください。



MIURA  
AYAKO  
LITERATURE  
MUSEUM **三浦綾子記念文学館**

〒070-8007 北海道旭川市神楽7条8丁目2番15号  
TEL0166-69-2626 FAX0166-69-2611 メール toiwase@hyouten.com

三浦文学最大の遺産

「口述筆記の書齋」

復元保存のため募金をお願いします。



小説『氷点』の舞台、旭川市神楽の外国樹種見本林に建つ三浦綾子記念文学館(下)と口述筆記の書齋分館(左) ※イメージ図



公益財団法人・公益財団法人三浦綾子記念文化財団



MIURA  
AYAKO  
LITERATURE  
MUSEUM **三浦綾子記念文学館**

北海道旭川市神楽7条8丁目2番15号 TEL0166-69-2626 FAX0166-69-2611  
http://www.hyouten.com

JR旭川駅から南へ約2km氷点橋が架かる北彩都エリアから見本林へと続く

# 三浦文学ワールドが出現!

## 北海道の屋根・大雪山系のすそ野に広がる旭川の街

「市民」の力で実現した三浦綾子記念文学館が、20年目を迎える。創造することをやめない市民は、「街」を大きく変えた。旭川駅、氷点橋、氷点通り、三浦文学の道、三浦綾子記念文学館、「口述筆記の書斎」の分館、『氷点』の聖地・見本林。一直線に広がるそれは、北の文化のかおる街に出現した「三浦文学ワールド」だ。

三浦文学の旅はここから

### ● JR旭川駅 ●

旭川市の中心地として三浦作品にたびたび登場しました。小説『氷点』では、主人公の陽子が出発して駅に立ち寄る場面、小説『塩狩峠』では、旭川に転勤となった主人公の永野信夫が同僚の三堀に迎えられる場面などが印象的です。現在の駅舎は4代目。2011年に全面開業しました。駅舎の東口と南口が「氷点通り」につながっています。駅舎内には、石川啄木の像や安田侃の「天秘」が設置され、北海道の木材をふんだんに使った駅舎とともに、北の文化が薫る街を象徴する駅です。

まちが、変わったのです  
あなたは、なにを感じますか

### 夫婦愛に触れる散歩道

### ● 三浦文学の道 ●

旭川から美瑛・富良野にのびる国道237号線の「神楽4条8丁目」から見本林までの約300メートル。2018年に完成をめざします。入り口の案内板にはじまり、緑と紅葉の並木道に散りばめられた三浦綾子の名言、三浦綾子・光世夫妻の口述筆記のレリーフ、彫刻の街にふさわしい彫像、意匠を凝らした街路灯などが検討されており、三浦文学のテーマの一つである「愛」を感じる空間となります。ここを歩けば、愛について自然と思い巡らし、豊かに記憶に残ることでしょう。

### 市民の公募が生んだ

### ● 氷点橋 ●

旭川は「川のまち」です。大雪山系・十勝岳連峰からの水が豊かに注ぎ込む、幾本もの川と無数の橋。その中でも2011年に開通した「氷点橋」は、市民公募で名づけられました。小説の作品名が橋の名前になったのは珍しく、三浦綾子生誕90年講演で来旭され、この橋をわたった作家の海堂尊さんは「三浦文学が根付いている何よりの証拠が、『氷点橋』『氷点通り』である。つまり、三浦文学とは旭川の文学なのだ」と感慨深く語りました。氷点橋から眺める峰々は、四季それぞれに美しく、観光スポットにもなっています。

### 市民が名づけた愛称

### ● 氷点通り ●

氷点橋の開通にともない、命名された神楽地区の街路。沿道の14ヶ所には、三浦光世の揮毫による木製プレートが設置されています。

### 花と緑に包まれる

### ● 北彩都ガーデン ●

JR旭川駅に直結した、まちの中心部にある全国的にも珍しいロケーションのガーデン。広さ約12haの中には、ハーブガーデンや大池、ガーデンセンターなどを整備。旭川の工芸品「優佳良織」をヒントにデザインされた花壇には、およそ50種6500株の宿根草が植栽されています。平成27年度の都市景観大賞(国土交通大臣賞)を受賞。

北海道の屋根・大雪山系を望む氷点橋

### 市民が創り、守り、育てる

### ● 三浦綾子記念文学館 ●

1998年6月13日、全国の三浦綾子ファンの募金によって建てられた全国でも稀な民立の文学館。その運営も、入館料と賛助会員友の会の会費や、100名を超えるボランティアに支えられています。直筆の原稿や膨大な取材ノートなど豊富な資料を通じ、三浦綾子の作家活動、作品、人生の歩みを紹介。視聴覚室、図書館、喫茶室なども備えます。



1999年には旭川市都市景観賞に

### 『氷点』の聖地

### ● 外国樹種見本林 ●

外国種の樹木が北海道で育つか観察するため、ストロベーマツやヨーロッパカラマツなど約50種6,000本の樹木が植栽された、北海道で最も古い外国樹種人工植栽地のひとつ。近くには石狩川の支流のひとつ美瑛川が流れ、エゾリスなどの小動物や野鳥も数多く生息。森林浴、散策の場として市民に親しまれています。三浦綾子の小説『氷点』の舞台として有名。

### 見本林



### 三浦家の心臓

### “口述筆記の書斎”

### ● (分館) ●

三浦文学の最大の特徴は、何と言っても、物語の面白さ。これらの物語は、三浦綾子・光世夫妻の“口述筆記の書斎”から生み出されました。分館では、この貴重な書斎を復元展示。そして、三浦綾子の代表作でありデビュー作の『氷点』を常設で展示いたします。物語が生み出された書斎と、物語の舞台が1つになって、皆様を三浦文学の世界にお連れします。



文学館の隣に建つ



夫妻で口述筆記が続けられた書斎